2011年（平成23年）11月29日（火曜日）
北海道新聞

給食は「不検出」食材だけ

札幌市教委、放射能検査

全国有数の厳格対応

札幌市教委が12月から独自に始める学校給食食材の放射性物質検査について、同市の上田文雄市長は28日、微量でも放射性物質を検出した食材は、放射性セシウムで1キロ当たり500ベクレルなどとされている国の暫定基準値を下回っていても、使わない方針を示した。

道教委によると、道内で学校給食食材の放射能検査を始める予定の自治体は、札幌以外にない。道外で実施している自治体のうち6月から始めた横浜市は、暫定基準値よりも低い場合は「その都度、使用の可否を判断している」（横浜市教委）という。

上田市長は同日の記者会見で検査の実施方針を明らかにした中で、検出限界の4ベクレル未満を示す食材しか使わない考えを表明。全国の中でも厳しい対応を取ることについて、「（安全性をめぐり）国民的合意が成立していない。子供たちの食の安全に万全を尽くしたい」と述べた。

検査する食材は、国が放射性物質の検査対象としている1都16県産の青果物や鶏肉、牛肉、魚など。月2回程度、2検体ほどを抽出し、北海道薬剤師会公衆衛生検査センター（札幌市豊平区）で調理前日に、放射性セシウムと放射性ヨウ素の濃度を計測する。

■福島産リンゴからセシウム　札幌市保健所は6日、同市中央卸売市場で採取した福島県伊達市産のリンゴから、放射性セシウムを1㌔当たり49ベクレル検出したと発表した。

国の暫定基準値（1㌔当たり500ベクレル）を大幅に下回っており、市保健所は「食べても健康に影響はない」としている。

上田文雄札幌市長は12月から、微量でも放射性物質を検出した食材は学校給食に使わない方針を示しており、市保健所は、このリンゴを給食で使わないよう市教委に伝えた。

◀2011年12月07日
北海道新聞朝刊